

[普及事項]

新技術名： リンゴ新品種「秋田20号（仮称：秋田紅ほっぺ）」の育成

（昭和63～平成18年）

研究場所名 果樹試験場 リンゴ部

担当者 高橋 功・上田仁悦 他6名

[要約]

リンゴの新品種「秋田20号（仮称：秋田紅ほっぺ）」を育成した。この品種は、9月上旬～中旬に収穫可能な早生種で、果皮色は鮮やかな赤色を呈する。食味は、甘酸適和で爽やかな香気を有し、同時期収穫の「つがる」より酸味と香気があり、「さんさ」より酸味が少なく、優れている。主要な一般品種と交雑和合性を示す。

[ねらい]

「ふじ」に偏った品種構成を是正し、多様な消費者ニーズに対応できる新品種を育成する。

[技術の内容・特徴]

1. 育成経過

- 1) 本品種は、昭和63年「千秋」に「さんさ」を交雑し、獲得した448個体の実生から選抜されたものである。
- 2) 平成8年に初結実し、外観と品質が優れることから平成11年に1次選抜した。
- 3) 平成17年春から「秋田20号」として現地試験を開始したが、試食会等で生産者や関係団体の評価と生産意欲が高いことから、翌18年秋に3次選抜して育成を完了した。
- 4) 平成19年3月、県職務育成審査会の承認を経て品種登録申請を行った。

2. 特性

- 1) この品種は、「千秋」に「さんさ」を交配して育成された交雑実生である（図1）。
- 2) 樹姿は、「千秋」似の開帳性、樹勢は中、「さんさ」のような枝の下垂はない（写真1）。
- 3) 外観は、円錐形、果皮は明るく鮮やかな紅色に着色し、片親の「さんさ」に似るが、「さんさ」より果面のさびの発生が少ない（写真2、3、4）。
- 4) 果実の大きさは、中～やや小（300g前後）で、生産量は中程度とみられる（表1）。
- 5) 食味は、甘酸適和で、糖度が「つがる」より高く、酸は「さんさ」より少ない。また、多汁で、芳香があり、早生種の中でも優れた品質を有する。（表1、図2）。
- 6) 日持ち性は、同時期に収穫される「さんさ」や「つがる」に比較してやや長い。
- 7) 果皮のワックスの発生程度は、収穫時から貯蔵中において少～中である。
- 8) 交雑和合性は、「ふじ」、「千秋」など主要な一般品種と相互に和合性を示す。
- 9) 生理障害の発生は、年により心かび、つる割れ、グリーンスポットの発生が僅かに認められる。収穫前落果とビターピットの発生は、ともに認められない。（表1）。
- 10) 一般的な防除管理において、特に問題となる病害虫の発生は認められない。

3. 期待される効果

- 1) 「つがる」の着色管理に苦慮する県中央や県南地域での導入が見込まれるため、現状の「ふじ」偏重の品種構成が是正され、受粉環境の改善が図られる。

[普及対象範囲]

県内リンゴ産地全域

[普及・参考上の留意事項]

- 1) 年によって果実につる割れやグリーンスポットが発生することがあるので、栽培管理面では、適樹勢の維持と土壌改良材（苦土石灰等）の施用を心がける。

[具体的なデータ等]



写真1 「秋田20号」の樹姿（中央）



写真2 「秋田20号」の結実状況



写真3 「秋田20号」の果実



写真4 「秋田20号」の果実縦断面

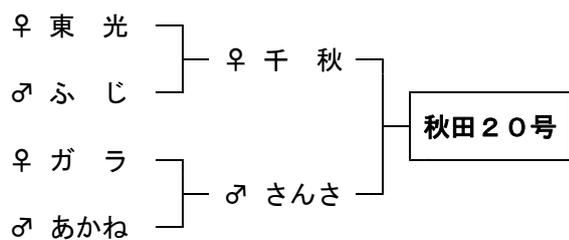


図1 「秋田20号」の交雑系統図

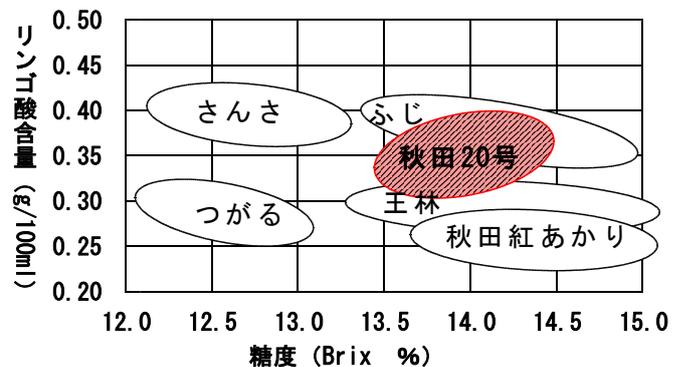


図2 主要品種との糖酸度の比較

表1 「秋田20号」(実生原木)の果実品質

栽培地：場内24号圃

年次	収穫日	果重 (g)	果形 (mm)		硬度 (lbs)	糖度 (Brix %)	酸度 (g/100ml)	着色 <sup>1)</sup> (%)	心かび	デンプン <sup>2)</sup>
			好	悪						
平成12年	9月18日	-	-	-	14.9	14.5	-	-	0.1	-
13年	9月17日	232.7	-	-	12.2	14.3	0.375	50	-	-
14年	9月20日	310.0	-	-	10.8	13.1	0.251	83	0.6	-
15年	9月18日	342.5	-	-	11.7	14.9	0.300	65	0.0	-
16年	8月30日	266.4	-	-	12.2	12.4	0.345	53	0.2	-
17年	9月7日	258.5	75.1	83.8	16.7	13.6	0.469	40	2.0	3.0
18年	9月5日	188.1	68.2	75.7	15.7	12.6	0.295	74	0.1	3.3

<sup>1)</sup>着色面積割合

<sup>2)</sup>染色無（デンプン無）で0～完全染色（デンプン多）で5